



学生が考える！

Vol.2

都留市の企業×SDGsの未来



富士の湧水で栽培する野菜工場



問合先 企画課 企画担当

SDGsに取り組んでいる市内企業を都留文科大学生が実際に訪問・取材し、皆さんに紹介！第2弾は富士山の湧水を使用することで、農薬不使用で新鮮な野菜を作る(株)ユニファームに迫ります。



1. 持続可能な農業

(株)ユニファームは、富士山の湧水や野菜の品種に合わせた色や光量に調整した特製のLEDを使い、ミネラル豊富な品質にこだわった葉物野菜を水耕栽培しています。衛生管理されたクリーンルームで収穫されるため、天候に左右されず、いつでも安定した量の新鮮な野菜を提供できます。また、低温の湧水を利用したハウスで夏秋いちごも栽培。いちご狩りもできるため、本市の観光資源にもなっています。



▲クリーンルームの中で育つ野菜



▲低温の湧水を活用したいちご農園

3. 野武さんから学生へのメッセージ

日本を元気にしてほしいです。特に農業は現在、担い手の減少という課題に直面しています。方法や手段を変え、農業をもっとスマートな形に進化させていく必要があります。さまざまな大人と関わりながら、多くの経験を通して、ぜひ日本の未来に活力をもたらしてください。



2. 環境へ配慮した取り組み

LEDや空調などを含めた事業所全体の使用電力をデマンド管理することで、無駄な電力消費がないよう調整しています。

汲み上げた湧水を繰り返し利用する仕組みも備えているため、水資源の有効活用はSDGs目標達成に貢献しています。また、農薬を一切使用していないため、安全・安心な栽培方法となっています。



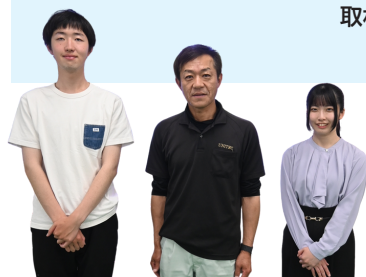
4. 会社としてこれから目指すこと

お客様のお子さんが『この野菜なら食べられる』と言ってくれたときは本当に嬉しく、やりがいを感じました。これまでの苦労を糧に積み重ねてきた取り組みを大切にしつつ、ブラッシュアップさせ、取り組みを未来へつなげていきたいと考えています。

学生からの一言

いちご農園では、湧水を冷却に活用して、夏でもいちごが育ちやすい環境を整備し、都留の水資源を有効活用する持続可能な農業が実践されていました。また、会社が手がけていた電子部品の製造技術を応用し、LEDを用いた効率的な野菜栽培に取り組んでいることも印象的でした。こうした姿勢は、SDGsの目標9「技術革新による持続可能な産業の発展」と深く重なると感じました。SDGsの多くの目標に対する意識と実践が随所に見られる、大変学びの多い訪問となりました。

取材者：都留文科大学生
平松 敬汰朗、小林 麗葉



取材先：(株)ユニファーム
(都留市与縄1186)
取締役 野武 直記

(株)ユニファームのSDGsのポイント



2. 飢餓をゼロに

安心安全な農作物を季節問わず安定して供給



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

農業に独自の技術を取り入れ、持続可能な生産モデルを構築



12. つくる責任 つかう責任

資源を無駄なく使い、環境に配慮した農業を実践

都留市ではSDGs宣言事業所を募集しています。

「都留市SDGs宣言事業について」市HP▶

(株)ユニファームのHPはこちらから▶

取材協力：地域活性化起業人

宮川 清希 (株)ニコン日総プライム

